

三重・伊勢神宮奉仕会青年部

神嘗祭へ児童稲刈り

【三重・伊勢】伊勢神宮奉仕会青年部は、伊勢市の中居弘和さんが管理する水田4・5畝で、伊勢神宮の神嘗祭（かんなめさい）に奉納する米「コシヒカリ」を刈り取った。市内のガールスカウトなど児童と保護者ら約130人が参加。J A伊勢の職員が、稲刈りの方法を指導し、約150キを収穫した。

青年部は、20年に一度の神宮式年遷宮に伴う民俗行事のお木曳き行事、お白石持ち行事の伝統継承を目的に活動する。稲刈り行事は本年度で35回目。地域の子どもたちに郷土や自然の恵み、食のあり

がたさを学んでもらうことを目的とする。

当日は、J Aの職員が、鎌の使い方や稲の刈り取り方法を指導。参加した児童らは、1株ずつ刈り取った。青年部メンバーが稲束

（5株1束）にまとめ、10月15日の神嘗祭に奉納する。J Aの担当者は「地域の伝統継承に協力できて誇りに思う。子どもたちへの農業体験学習は、J Aとして取り組む食農教育でも重要だ」と話していた。



刈り取った稲を束にまとめる参加者ら